

秋田の土地改良



誰もが住んでみたい村に
農業農村整備

みどり
水土里ネット秋田

目次

| | |
|----------------------------|----|
| 第50回水土里ネット秋田通常総会 | 2 |
| 第49回全国土地改良功労者表彰(第50回全土連総会) | 7 |
| 秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会 | 7 |
| 平成19年度農用地等集団化優良地区等表彰式 | 8 |
| 「農村災害支援アンケート」集計結果 | 9 |
| 平成20年度秋田県人事異動(農林水産部関係) | 10 |
| 平成20年度県農林水産部関係新任挨拶 | 10 |
| 平成20年度土地改良関係課事務分掌(秋田県) | 12 |
| 平成20年度人事異動・機構図(水土里ネット秋田) | 14 |
| 雄物・米代川地域基盤確立推進協議会・連合会日誌 | 16 |
| 合併予備調印式・会員だより | 17 |
| インフォメーション | 18 |

◆発行所／秋田県土地改良事業団体連合会 〒010-0967 秋田市高陽幸町3番37号
TEL .018-888-2750(代) FAX .018-888-2834 <http://homepage2.nifty.com/akidoren/>



「がんばってね。」美しく豊かな農村づくり写真コンクール入賞作品

第50回

本会通常総会

設立50周年を契機に、多角な事業運営の展開と機能強化を図る！

■全国土地改良大会秋田大会の成功に向けた体制づくり

3月18日、本会第50回通常総会が県社会福祉会館(秋田市)において会員131名(内委任状47名)が出席、来賓として寺田典城県知事、宮元均東北農政局次長、大野忠右エ門県議会議長、藤田了次県農林水産部長、国会議員秘書の方々ほか関係者多数が臨席のもとに開催された。

総会では高畑会長の挨拶(別掲)のあと、功績者表彰として優良7団体及び個人21名の表彰が行われ、続いて来賓の方々が祝辞を述べられた。

この中で、寺田知事は「日本はもっと農業を大事にしないとイケない。食料自給率、米価の下落など問題を抱えているが、どうしたら農業に夢を持てるかが一番の課題である。県でも品目横断的安定対策や集落営農など積極的に進めているが時代に即した競争できるシステム作りが重要と考えている。皆さんにも農業に前向きに、夢を持って取り組んでいただきながら、一層のご協力をお願いしたい」と述べられた。

また、宮元局長は宮坂東北農政局長の祝辞を代読し「秋田県は農地・水・環境保全活動において全国第3位の63,000haで取り組んでいる。これは秋田県の土地改良関係者の美しい農村を未来に引き継ごうとする強い熱意の表れである。現下の課題は米価の下落であるが、土地改良区の賦課金徴収にも影響を与えている。安定した土地改良区運営は、我が国の食料供給力と健全な農村維持のために重要であり、今後も農業農村の発展に積極的に貢献する組織として活躍されることを期待します」と述べられた。

祝電披露の後、議長に大館市土地改良区理事長小笠原利雄氏を選出し議事に入った。

平成18年度事業報告及び一般会計収支決算、



平成19年度一般会計収支補正予算(理事会専決処分)、平成20年度事業計画及び一般会計収支予算、定款及び規約の一部改正などが提出され、審議の結果、すべての案件が承認された。また、役員を選任も議決され、理事16名、監事3名が選任された。

最後に、三浦専務理事により決議文(別掲)の朗読があり、満場の承認を得て採択され、総会は終了した。

■功績者表彰は7団体21個人が受賞

なお、今回表彰された土地改良功績者表彰(優良団体、個人)の受賞者は次のとおり。

【団体表彰】◇金章＝男鹿東部土地改良区◇銀章＝合川町土地改良区、山本郡三種町下岩川土地改良区、河辺土地改良区◇銅章＝南秋田郡五城目土地改良区、男鹿市若美土地改良区、秋田市上北手猿田土地改良区

【個人表彰】亀田三次郎、石田政一、水戸嘉七、堀内順悦、石田誠孝、米川新、能登正実、戸嶋幸三、遠藤由美子、佐野秀明、栗田哲栄、竹内幸男、佐藤清太郎、高橋慶市、佐藤浩康、星宮文雄、藤岡義博、黒澤正巳、佐々木重美、照井嘉内、近田榮一



会長挨拶

水土里ネット秋田会長 高畑 進

本日は、年度末で大変ご多用の中、会員皆様のご参会を頂き、誠にありがとうございます。

特にご来賓として、定例県議会の最中、寺田知事様並びに大野議長様、また遠路東北農政局の宮本次長様をはじめ、後ほどご紹介申し上げます多くの方々が、それぞれご繁忙の中ご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

皆様には、日頃農業農村整備事業の推進並びに本会の業務運営に、特段のご指導・ご支援を頂き厚くお礼申し上げます。

本会は、昭和33年に市町村や土地改良区等の協同組織として設立以来、土地改良事業の推進を通して、農業農村の発展に尽くして参りましたが、今年、創立50周年の節目を迎えることとなりました。

これもひとえに、国・県など関係機関のご理解・ご支援と会員皆様のご理解・ご協力の賜と心から感謝申し上げますとともに、半世紀にわたって培ってきた技術力、経験をもとに、役職員心新たに、引き続き会員皆様のニーズに沿った業務運営に全力を挙げて努力してまいり所存であります。

この後引き続き表彰が行われますが、受賞される改良区、役職員の方々はいずれも土地改良



事業の推進に尽くされ、地域の発展に功績を上げた方々であり、あらためて心から敬意を表しますと共に、引き続きご活躍されることを期待申し上げます。

次に、本会を取り巻く情勢について2、3報告申し上げます。

まず、本会事業の骨格をなす受託事業については、新規事業の減少や国・県の契約方式の見直しなどから今後更に減少方向を辿る見通しとなっており、従前に増して厳しい財政運営となるものと思っております。

このような中、会員皆様の付託に十分応えるために、今後新たな分野への進出も視野に入れながら、さらなる技術力の向上と意識改革を図り、効率的な運営を心がけていきたいと考えております。

この点、日常の業務執行段階での顧客から頂いている信頼感のほか、とくに昨今における各地での災害復旧支援活動で頂いている高い評価、そして今年もまた職員一人が技術士の資格を取



第31回 全国土地改良大会 秋田大会

■日時 平成20年10月14日(火)

■場所 秋田県立武道館

事業視察 平成20年10月15日(水)～16日(木)

多数の参加をお待ちしております!!

あと 172日(4月25日現在)

【問い合わせ先】

総務企画部全国大会開催PJ 畠山・阿部・齊藤・尾張谷
TEL.018-888-2713 FAX.018-888-2834



得するなど、今後に向けた下地は十分整えつつあるものと存じております。



次に、新年度の事業計画については、後ほど議案として詳細説明申し上げますが、**最大の行事は10月の全国土地改良大会の開催**であり、目下その成功に向けて万般に亘る準備を進めているところございます。大会の開催に当たって、県並びに市町村ご当局から物心両面に亘る特段のご支援を頂けることになっており、ここに改めて厚くお礼申し上げます。

この大会は、今年の県内行事としては6月の全国植樹祭に次ぐ大きな行事となっております。県外から2千人、県内から1千人が参加する予定で、このため大会式典や歓迎アトラクションなど随所に秋田らしさを演出することといたしているほか、事業視察は県内5コースを設定し、各地の観光資源や特産物紹介にも力を入れるなど、経済効果の面でも多少なりともお役にたてればと存じております。

引き続き、県の関係部署、農政局の地方機関、市町村並びに水土里ネット関係皆様の特段のご協力をお願い申し上げます。

次に、「**農地・水・環境保全向上対策**」について申し上げたいと存じます。

土地連はこの対策協議会の事務局を担当しておりますが、本県での本年度の取り組みは、活動組織数が709団体、面積が約6万3千ヘクタールと、**全国トップクラスの実施状況**となっております。

このことは、県ご当局が、いち早くこの活動を県民運動として位置づけ、市町村ともども、厳しい財政事情下にあつて、要望事業量の全てについて予算措置をして下さったほか、適切な指導をして頂いた賜であり、心から感謝申し上げますし、土地改良区もこの事業に積極的関わっていく中で、これまでにない新しい地

域活動として、関係住民皆様から好評を頂いているところであります。

本年度は初年度ということで、参加者の呼びかけや事務取扱いなど不慣れな面もあったかと存じますが、国におかれても、事務の簡素化については大幅に改善されていますので、間もなく始まる来年度の活動に向け、市町村や水土里ネットの担当者皆様には引き続きよろしくご指導、ご協力をお願いいたします。

ご高承のとおり、我が国の食料自給率はついに40%を切る状況となり、また米の過剰基調に基づく米価の大幅な下落や、中山間地域における集落崩壊の危機の顕在化、更に都市と地方の格差の拡大など、地域の農業や集落が大きく変貌する中で、先人達が営々と築き育んできた水・土・里を適切に保全管理し、これを次の世代に引き継いでいくことは、**水土里ネットに課せられた大きな使命**ではありますが、この「農地・水・環境保全向上対策」と「21創造運動」は、正にこの一翼を担う、なくてはならない事業であると考えますので、皆様と共に一層の取り組みを期して参りたいと存じます。

次に、国の平成20年度農業農村整備関係予算では、「**農政改革を推進するための基盤づくりの新たな展開**」をはじめとする**3本の柱**のもと、更に11項目に亘る重点事項を配列した予算が編成されており、公共事業予算の削減基調の中、農政改革推進の基盤を整備するため、前年度比99%の予算が確保されております。

特に農地政策の改革推進のため、「**農地に関する諸々の情報を地図上に一元化して整備する水土里情報利活用促進事業**」について、本年度の約4倍の予算が計上されており、来年度は加速的に整備されるものと期待しております。

また、県の20年度予算につきましては、明日19日に議会議決が行われる予定と伺っておりますが、地方交付税の歳入減等から、予算の実質規模が5.1%減となる中で、自立と発展に向け、産業の振興と教育・人づくり、環境整備などの重点施策を積極的に推進する予算内容となっております。

その中で、公共事業については本年度並の額を確保され、ほ場整備事業に96億円、農地・水・環境保全対策に6億8千万円が計上されるなど、**基盤整備と農村の環境対策に重点を置いた予算編成**となっております。農業農村の振興に特段のご高配を頂いております。